

10/3  
早稲

# 失業率悪化3.0%

## 8月、求人も1.04倍に低下

総務省が二日発表した八月の完全失業率（季節調整値）は前月比0.1ポイント増の3.0%となり、二カ月連続で悪化した。失業率が3%台になったのは、二〇一七年五月以来三年三カ月ぶり。完全失業者数は前年同月比四十九万人増の二百六万人だった。

新型コロナウイルス感染拡大で五月下旬まで続いた緊急事態宣言による雇用への影響が依然色濃く残っている。厚生労働省が二日発表した八月の有効求人倍率（季節調整値）は一・〇四倍で、一・〇八倍だった前月から〇・〇四ポイント落ち込んだ。八カ月連続の悪化で、一四年一月以来、六年七月ぶりの水準となった。

八月の新規求人は主要産業合計で前の年の同月と比べて27.8%減となった。減少幅が最も大きいのは、七月に続いて宿泊、飲食サービスとの49.1%減で、書き入れ時に感染が再拡大した影響が顕著に出た。多くの人が夏休みの旅行や帰省を控えた結果、宿泊業の新規求人が大きく響いた。男女別の失業率は男性が前月と同じ3.0%、女性

は0.2ポイント増の2.9%となった。就業者数は前年同月から七十五万人少ない六千六百七十六万人で、パートやアルバイトなど非正規の従業員数は百二十万人減の二十七万人だった。

求職者一人当たりの求人数を示す有効求人倍率が地域別で最も高かったのは福井、岡山両県の一・四三倍以上で、最も低いのは沖縄県の〇・六七倍だった。一倍を切ったのは、七月の十四道県に岩手、和歌山が加わり、十六道県となった。

米は失業率7.9%  
5カ月連続改善

### 9月雇用統計

【ワシントン＝共同】米労働省が二日発表した九月の雇用統計（速報、季節調整済み）によると、失業率は前月から0.5ポイント低下し、7.9%となった。経済活動の再開に伴い五カ月連続で改善したが、長引く新型コロナウイルスの影響で依然高い水準が続いている。景気動向を敏感に映す非農業部門の就業者数は六十六万一千人増加。回復の勢いは弱まった。

十一月の大統領選前に発

表される最後の雇用統計で、トランプ政権の評価にも影響を与えそうだ。

米国では新型コロナウイルスが流行した三月以降、わずかに二カ月間で約二千万人が失業。その後、外出制限や店舗休業などの解除で職場復帰が進み、八月までに失業者数のほぼ半数に当たる約千百万人が職に就いた。

失業率は四月に戦後最悪の14.7%を記録した後、一桁台まで改善してきている。ただ、コロナ流行前の二月の3.5%に比べると二倍以上に高止まりした状態。復職を前提としない恒久的な解雇の広がりも目立つ。